

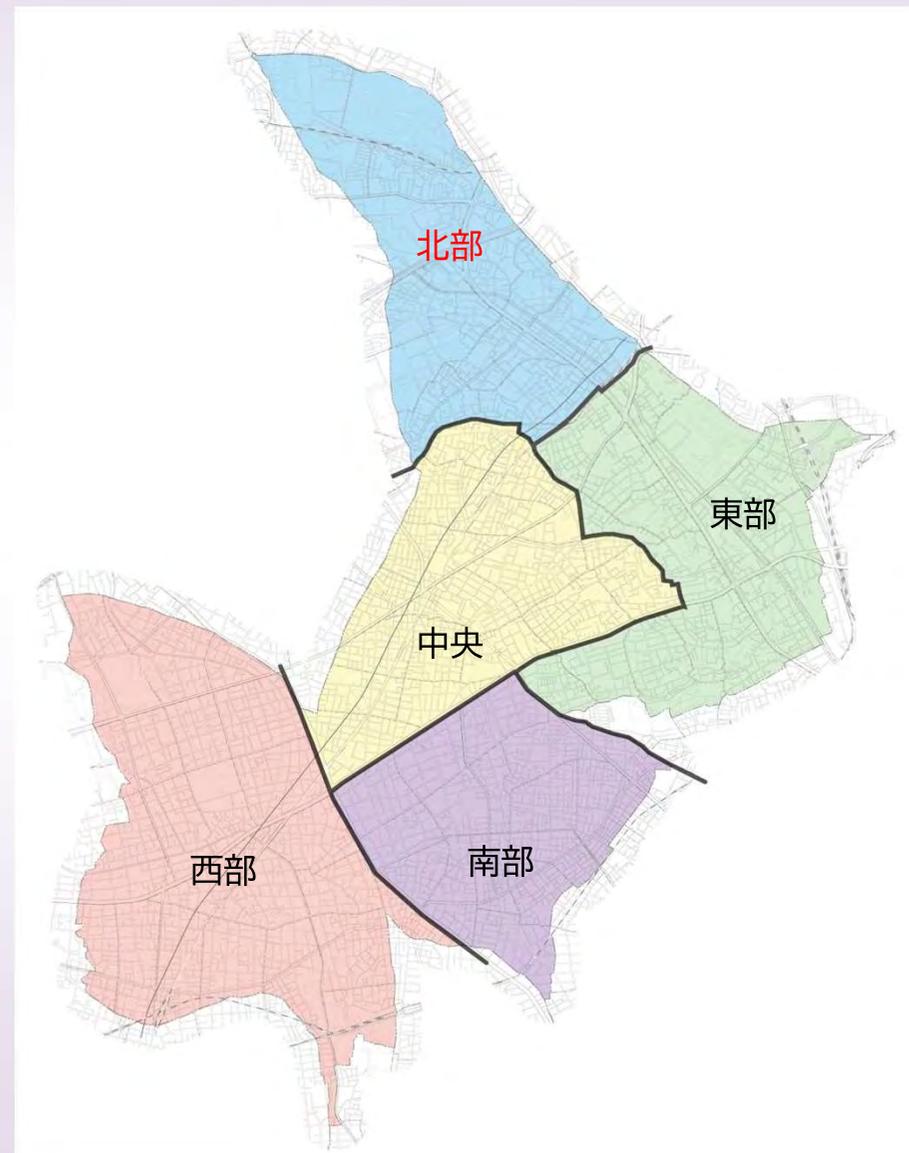
北部地区の地域交通導入に向けた地域の取組について

1.北部地区の取組み経過

北部地区では、アンケート調査を行うなど、3つの団体で地域住民の勉強会が開催されています。

北部地区の取組み状況

名称	メンバー構成	対象地域	検討状況
さんまバスを走らせる会	各地域の住民	北部地区全域	運行ルートの検討
駒場地域交通研究会	駒場町会、住区、商店会、PTA、老人クラブ等	駒場1~4丁目	アンケート調査
東山三丁目地域交通研究会	東山三丁目自治会、住区、商店会、PTA等	東山3丁目	アンケート調査 運行形態検討



目黒区の5地区

2.北部地区の取組み

これまでに勉強会や試走会等を実施し、地域の皆さまで、地域交通導入に向けての検討を進めています。

R3年3月 北部地区意見交換会

- 各町会・自治会・検討団体の取組状況
- 今後の進め方や取組方など意見交換

R4年3月 さんまバスを走らせる会勉強会

- 北部地区運行ルート案の検討
- ワゴン車両による運行ルート案の試走

R4年6月 東山三丁目地域勉強会

- 東山三丁目地域アンケート実施結果
- 道路幅員、交通規制、目的地への道路状況確認

R4年9月 駒場地域勉強会(予定)

- 駒場地域アンケート実施結果
- 道路幅員、交通規制、目的地への道路状況確認



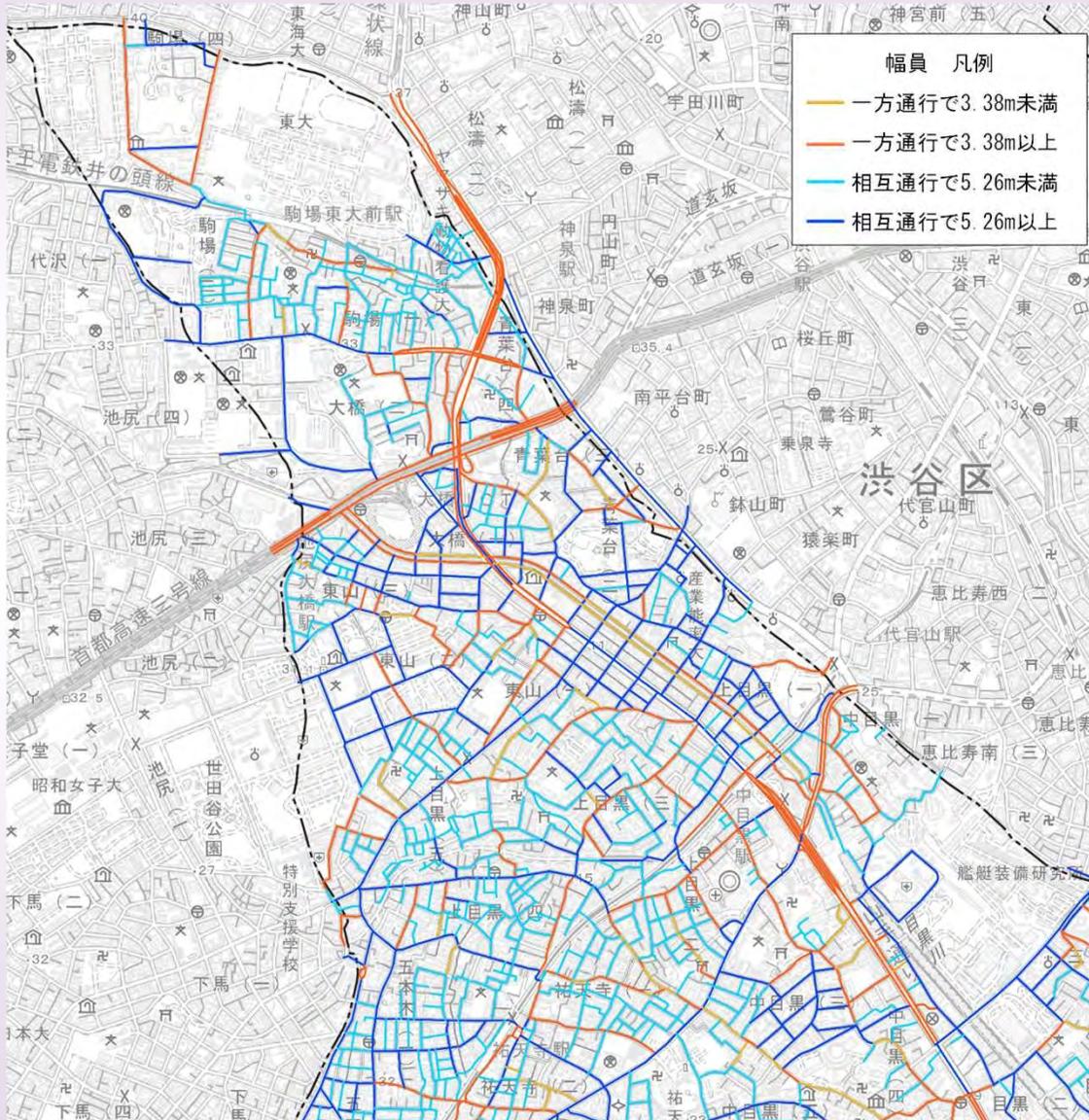
北部地区意見交換会



東山三丁目勉強会

3.必要な道路幅員の確認

北部地区で地域交通を検討するにあたり、ワゴン車の運行を想定し必要な道路幅員の確認を行いました。



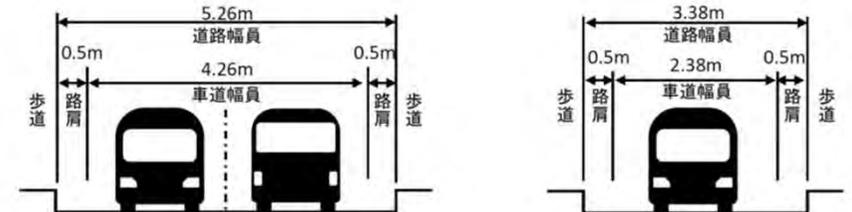
北部地区の道路幅員図

ワゴン車のイメージ(ハイエース)



出典: TOYOTAHP

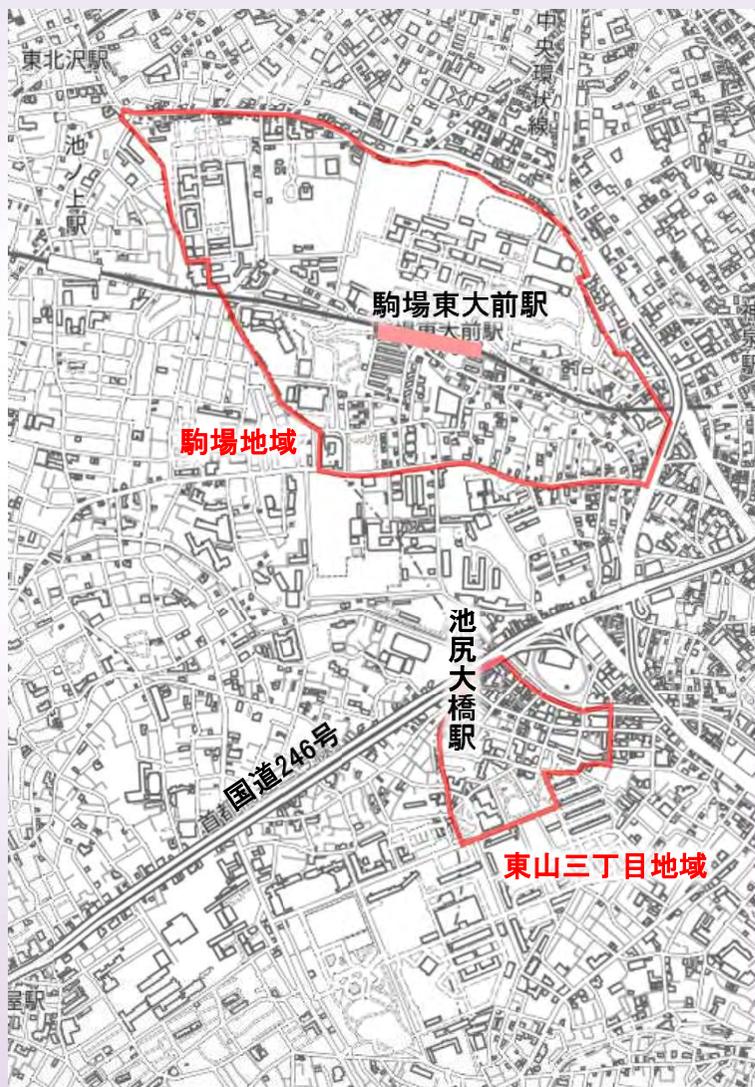
ワゴン車	車両幅	1.88m (ハイエース相当)
道路幅員	相互通行	$1.88 \times 2 + 0.5 + 0.5 \times 2 = 5.26\text{m}$
	一方通行	$1.88 + 0.5 + 0.5 \times 2 = 3.38\text{m}$



4.地域交通の検討に伴うアンケートの実施

北部地区で地域交通を検討するにあたり、東山三丁目地域と駒場地域で地域交通の利用意向や運行形態に関するアンケート調査を行いました。

アンケート結果の概要



東山三丁目地域と駒場地域

質問事項		回答結果	
		東山三丁目地域	駒場地域
新たな地域交通の利用意向		約7割	約8割
地域交通を使って 行きたい施設	公共施設	目黒区役所、パーシモンホール クロスエアタワー 等	目黒区役所、クロスエアタワー パーシモンホール 等
	病院	三宿病院、東京医療センター 自衛隊中央病院 等	東邦大学医療センター大橋病院 東京共済病院、三宿病院 等
	駅	中目黒駅、渋谷駅 恵比寿駅 等	中目黒駅、渋谷駅 池尻大橋駅 等
	公園	駒場野公園（駒場体育館） 林試の森公園 碑文谷公園（碑文谷体育館） 等	碑文谷公園（碑文谷体育館） 代々木公園 等
利用時間帯		午前～午後（15時）：約2割 午前～夕方（19時）：約3割	午前～午後（15時）：約3割 午前～夕方（19時）：約3割
利用頻度		不定期：約6割	不定期：約5割
停留所の場所		東山公園周辺 大橋ジャンクション 池尻大橋駅 目黒東山二郵便局 等	駒場東大前駅 駒場野公園入口 都立駒場高校前 駒場公園入口 等
利用運賃	大人	1回100円：3割 1回101～199円：2割 1回200円：3割	1回100円：4割 1回101～199円：2割 1回200円：3割
	子供	1回50円：3割 1回51～99円：1割 1回100円：2割	1回1～50円：2割 1回51～100円：2割

5.地域交通の検討に伴う意見・要望

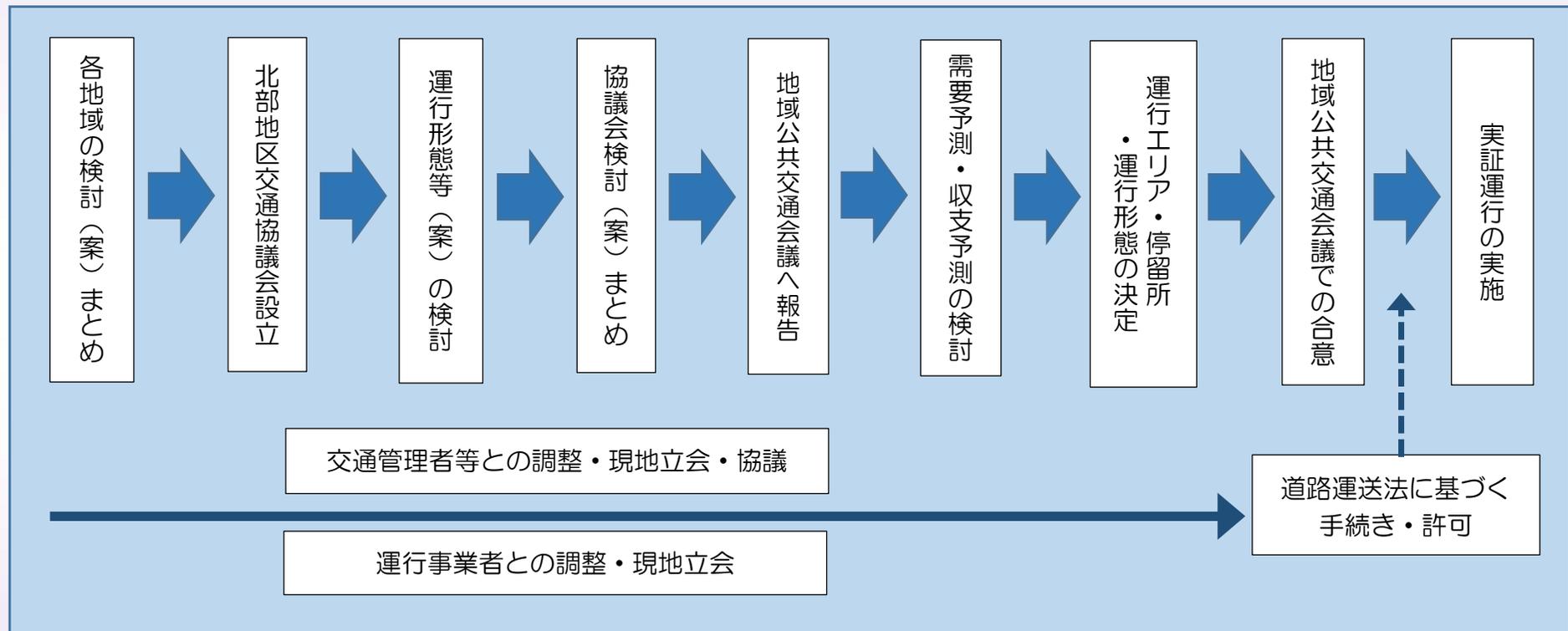
地域交通の検討にあたり、東山三丁目地域や駒場地域のアンケート結果から意見・要望を整理しました。

地域住民からの意見・要望

区分	主な意見や課題等
運行ルート	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地区は道路幅員が狭い箇所が多いため、ワゴン型の車両の運行が適していると思われる ・一方通行や細い道が多いので、バスを通すには不便だと思う ・目黒区内で南北方向を走ってほしい(南北方向への移動は徒歩か、バスや電車の乗り継ぎが必要な為) ・高齢者や障害のある方も利用しやすい公共施設へのアクセスを確保してほしい ・今後、歩行が難しくなってきたとき、病院へ行くバスがあると安心 ・東山から世田谷公園、三宿地域などの世田谷区との連絡路線が高齢化社会には必要 ・駒場(淡島通り)から池尻大橋方面の交通機関があると高齢者の送迎に便利 ・北部区域全体を一便でカバーしようと思うとルートが広くなりすぎてかえって利用しづらいと思う
運行形態	<ul style="list-style-type: none"> ・買物で坂を下りたり上ったりが大変なので、短距離でもバス・タクシーの便があると助かる ・駒場地域は、道路が狭い上に一方通行が多く地域内交通は現実的ではないと思う(特に定時運行的なもの) ・他自治体の例にある、コースを走るバスではなく、タクシーを乗り合いにしてAIにルートを決めさせる形態の方が利便性が高く利用しやすいのではないか
バス停設置	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーが多くある246号線 ・10年先の生活を考えると、山手通りに降りるバス停があると良い ・近くに大きなスーパーがないので、池尻大橋(ライフ)への便
乗換地点	<ul style="list-style-type: none"> ・246号線、三宿通り、山手通りのバス停までの道程が遠い ・目黒区で地域交通を導入する際、渋谷区のハチ公バスと乗り継ぎできると便利 ・駒場は高低差が大きく年を取ったら移動が大変なので、池尻方面(246号線等)の大きな道路までバスで移動できると助かる
採算性	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のタクシー券配布等の方法と比較検討すべき ・地域交通と呼ばれるものが導入されて赤字運営となれば、多くの血税が充てられるのは目に見えている ・バスは空車で走ると無駄も出るので、タクシーの利用補助等の方が現実的である
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しい車(EV/水素)を望む ・狭い道も多いので、ハチ公バスのような車が増えると事故や渋滞の可能性が高まる恐れがある ・駒場地域は道路が狭く、常時車と歩行者(小学生など)が危険な状態にあると思うので、小型バスでも走ることに違和感がある

6.北部地区の地域交通の検討の流れ

今後、北部地区の各地域や団体の検討(案)について意見交換を行い、北部地区交通協議会を設立し、地域交通導入に向けた具体的な検討を進めていきます。



目黒区地域公共交通会議 議事概要

名 称	令和 3 年度 目黒区地域公共交通会議（第 1 回）
日 時	令和 4 年 3 月 2 2 日（火）10：00～11：15
会 場	中目黒住区センター室 第 5・6 会議室 （目黒区中目黒 2-10-13 中目黒スクエア内 2 階）
出 席 者	委員の出欠については、別紙「出席者名簿」のとおり 事務局 都市整備部みどり土木政策課 高橋、山下、角田 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 3 名
会議の公開 非公開	公開
傍聴者	0 人
配付資料	資料 1 目黒区地域公共交通会議委員名簿 資料 2 目黒区地域公共交通会議設置要綱 資料 3 目黒区地域公共交通会議傍聴要綱（案） 資料 4 目黒区の現状と課題 資料 5 地域交通導入に向けた地域の取組経過 資料 6 今後の進め方
会議次第	1 開会 2 委員紹介 3 目黒区地域公共交通会議設置要綱及び傍聴要綱 4 報告事項 （1）目黒区の現状と課題について （2）地域交通導入に向けた地域の取組について （3）今後の進め方について 5 その他 6 閉会

会議の経過及び発言内容

【議事進行】

次第 1 「開会」

会長（都市整備部長）より挨拶。

次第 2 「委員紹介」

資料 1 「目黒区地域公共交通会議委員名簿」のとおり、事務局より報告。

次第 3 「目黒区地域公共交通会議設置要綱及び傍聴要綱」

資料 2 「目黒区地域公共交通会議設置要綱」及び資料 3 「目黒区地域公共交通会議傍聴要綱（案）」の概要について事務局より説明。

【補足説明】

- 会長 目黒区地域公共交通会議設置要綱第 4 条の会長代理として学識経験者稲垣委員を指名させていただく。
- 委員 異議なし。
- 会長 目黒区地域公共交通会議傍聴要綱（案）について、出席委員の了承を得て、本会議を公開とし、傍聴可能とします。本日の傍聴希望者はいません。
- 委員 異議なし。

【議事進行】

次第 4 「報告事項（1）目黒区の現状と課題について」

資料 4 「目黒区の現状と課題」の概要について事務局より説明。

次第 5 「報告事項（2）地域交通導入に向けた地域の取組について」

資料 5 「地域交通導入に向けた地域の取組経過」の概要について事務局より説明。

次第 6 「報告事項（3）今後の進め方について」

資料 6 「今後の進め方」の概要について事務局より説明。

【質疑応答】

- 委員 地域交通導入の課題として採算性などが挙げられていたが、安全性についても一つあると思う。乗務員の安全性について厚生労働省からも改善基準を示されている状況であり、地域交通導入検討の中で地域の方にもバス乗務員の採用・労働状況についての理解を頂きたい。

- 会長 バスやタクシーの乗務員状況についても区民の方に周知したい。
- 委員 資料4の『6. アンケート調査による移動不便地域』の右図は、青色の薄い地域はそれほど不便でないという認識でよいのか。
- 事務局 青色の薄い所は特に意見がなかったところである。1回のアンケートでは回答が十分でない部分もあり、駒場地区などでは後日別途アンケートを取ったが、やはり目黒区においてはそれほど不便を感じていない方が多いとも見られる。
- 委員 取組地区はあまり反応がなかった地区なのではと思ったが、アンケートの精度等からその点はあまり気にしなくてよいと理解した。今後運行を継続していくことを考えると、将来的な都市計画に絡めることや自動運転など、現行の事業者と違ったビジョンを付加することで、補助金や事業の継続にもつながるのではないかと思う。
- 会長 高齢化率などから考えると、利便性というよりも、坂道が多い中での高齢者の近隣への買物や通院といった福祉的な利用の側面が強まってくると思う。介護タクシー等の福祉サービスもあるが、そこまではいかない中間的な部分のニーズを行政としても検討していかなければならない。地域住民の意見が必要となるので、ぜひ色々ご意見を頂きたい。
- 委員 『6. アンケート調査による移動不便地域』の図について、回答数が多い地域では不満の数も多くなるので、本当に不便を感じている方がどれだけいるかというのをよくたどるべきである。目黒区は他の市に比べ交通網が充実している方であり、本当に利用してもらえぬ地域交通を作るには、例えば健常者の方のちょっと不便であるという意見よりも、高齢者や障害者の方の本当に困っているという意見を重視していく必要があると思う。
- 会長 障害者の方などについては別途、福祉サービスの中で検討がされているが、ニーズについては確かに詳細な把握が必要であるので、アンケートだけでなく地域住民の意見をよく聞いていきたい。
- 委員 目黒区の取組の特徴としては、元々交通の便がよい中で新たなモビリティを走らせるという点、区が具体的に支援のサポートの姿を提示している点、地域の中ですでに綿密な検討が進められている点であると思う。その中で課題として感じたのは、一つは現状の把握について。きめ

細やかなモビリティを考えるにあたり、町単位での分析ではまだ解像度が粗く、例えば不便地域についても詳細な地点まで把握できる方がよいので、先程もあったように地域住民からの意見というのが重要になる。

二つ目は既存の路線バスとの組み合わせについて。すでに路線バスが充実している中でどういった形で走らせるのか検討が求められる。東部地区の検討資料の中で、既存路線の活用、役割分担をすでに意識されているとは見られるので、それをどのように情報提供し検討に載せていくのかということと、同時にバス停留所の設備など道路整備に関わる部分も検討が必要になっていくかと思われる。

三つ目は地域の方々との関わり方。現在検討に参加している方々だけでなく、参加意識は高くないが実際の利用が見込まれる方やその家族の方々にも、新しいモビリティがどういったものか、生活がどう変わるのかというイメージが理解されるように情報提供していくべきである。

- 会長 目黒区は交通が充実していると考えていたが、平成30年3月に議会で陳情が採択になり、担当係が作られた。他の自治体では地域交通は赤字が多いと承知しているが、まずは街づくりの一環として、住民で検討していきたいとスタートした。東京都でも地域交通在り方検討会が設置され補助金が出るようになったので、ぜひ目黒区でも議論していきたい。本日の説明を受けてご意見や疑問点があれば、会議後一週間程度でメール等で頂戴したい。

【議事進行】

次第「5 その他」

- 会長 新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、今後もリモート参加を併用した会議開催としたい。

- 委員 リモート参加を含めた出席委員からは、反対意見等はなかった。

次第「6 閉会」

- 事務局 運行ルート素案については、今後、交通管理者・交通事業者・道路管理者等の方々に個別にご意見を頂いた上で再度ルート修正案を検討し、6月頃には協議会を開催して委員の皆様を確認いただきたい。

次回の会議でリモート参加希望の方は、事前に事務局へ連絡いただきたい。また、4月以降、人事異動等で委員名が変更したら連絡をお願いしたい。

以上

■交通会議委員からのご意見（令和4年3月30日、メールによるご意見）

<移動不便地域であることの検証、ニーズの精査>

○ご存じのとおり、多くのコミュバス導入事例で採算が成り立たなくなっていますので、当該地域の住民が移動不便地域であると実感しており、一定数の住民が継続してコミュバスを利用する意向であることを事前に丁寧に確認していくことが必要と考えます。

<行政による財政支援>

東京都の令和4年度補助金を活用する予定と理解しましたが、さらに目黒区としての財政支援を行う場合には、以下の観点を検討すべきと考えます。

○（上述の精査により）移動不便地域であることが確認され、それを解消するための施策であると位置付ける場合には、一定規模の財政支援は区民からも理解が得られるものと考えます。

今後、区内の他地域においても同様にコミュバスの導入が申請される可能性がありますので、地区ごとの不整合を生じさせないよう、財政支援について一定の判断基準を設けておくことが望ましいと考えます。また利用者総数、うち要支援者の利用者数、収支、安全運行などを判断指標とした財政支援の継続 or EXIT ルールも明示し、その達成は運営者の義務であることも明確にすべきかと思えます。

○脱炭素推進の観点から、できれば導入車両はEVバスとするべきで、その価格アップ分を財政的に支援することも区民感情に即していると思われれます。日野ポンチョのEV版（BYD社からのOEM供給）はこの春に発売が予定されており価格は2000万円程度ようです。災害発生時に給電車として活用、EV展示車としてイベントでの活用などを想定し、運営事業者との間で同車両を目黒区が優先的に短期で借り受けるための契約条項を盛り込んでおくことも一考の価値ありと考えます。

○ややハードルが高くなりますが、このコミュバス導入を先行事例としさらに区政の各課題解消やさらなる発展利用につなげていくために、乗車時に顔認証システムを使った料金決済、子供や要支援者の乗降記録を保護者に送信する見守りメール配信、車外カメラ設置による防犯パトロールへの活用などの実証実験も検討の価値ありと考えます。

<既存事業者との調整>

○当然のことながら、既存バス事業者からは路線の競合を懸念する声があがります。引き続き既存事業者との良好な関係を維持していくためには、移動不便地域をどう解消していくかについて既存事業者からも広くアイデアを求め、既存事業者として対応が難しい場合にコミュバスなどの代替輸送手段を導入するというシナリオを描いたほうが理解を得やすいかと思えます。

○また、既存事業者の路線ごとの（ざっくりとした）収支について情報を交換できるようにし、既存事業者にとって収支が苦しい路線については配慮を示していくことも大切なように思えます。

以 上

令和3年度 目黒区地域公共交通会議【第1回】出席者名簿

開催日時：令和4年3月22日(火)午前10時00分～午前11時15分

開催場所：中目黒住区会議室 第5・6会議室(目黒区中目黒2-10-13 中目黒スクエア内2階)

No.	所属・役職等	氏名(敬称略)	会場出欠席	Web出欠席	備考
1	目黒区都市整備部長	なかざわ えいさく 中澤 英作	○		
2	目黒区都市整備部都市計画課長	ちば ふみこ 千葉 富美子	○		
3	目黒区都市整備部みどり土木政策課長	たかはし ひろし 高橋 広	○		
4	東京都交通局自動車部計画課長	しまざき けんいち 島崎 健一	○		
5	東急バス株式会社運輸事業部運輸計画部計画課長	はらやま だいすけ 原山 大輔	○		
6	小田急バス株式会社運輸計画部課長	こいずみ ひろき 小泉 裕樹	—	○	
7	一般社団法人東京バス協会乗合業務部長	よねざわ あきひろ 米澤 暁裕	○		
8	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会業務部業務部長	こいけ たけし 小池 毅	—	○	
9	目黒区町会連合会	みしば のぶお 三柴 伸生	○		
10	目黒区商店街連合会	すわ たかし 諏訪 尊	○		
11	目黒区老人クラブ連合会	やまぐち たけし 山口 武志	—	—	欠席
12	区民(公募)	いけうち たかし 池内 卓	○		
13	区民(公募)	かわはら ひろこ 川原 寛子	○		
14	国土交通省関東運輸局東京運輸支局 首席運輸企画専門官	こいずみ しんすけ 小泉 伸介	—	○	代理
15	東京都交通運輸産業労働組合協議会 バス部会事務長	さとう なおのぶ 佐藤 尚宣	○		
16	東京都交通運輸産業労働組合協議会 ハイタク部会事務長	くが つねお 久我 恒夫	—	—	欠席
17	国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所管理第一課長	まつざき あきら 松崎 暁	○		
18	東京都建設局 第二建設事務所管理課長	すずき よしはる 鈴木 義治	—	—	欠席
19	目黒区都市整備部土木管理課長	さわだ まさゆき 澤田 雅之	○		
20	警視庁交通部交通規制課 課長代理	もり かつとし 森 勝利	○		
21	警視庁目黒警察署交通課長	きくち あさみ 菊池 あさみ	○		
22	警視庁碑文谷警察署交通課長	やました のりお 山下 憲雄	○		
23	学識経験者 東京都市大学建築都市デザイン学部准教授	いながき ともゆき 稲垣 具志	○		